

田川地区の県立高校再編整備計画(第2次計画)及び庄内中高一貫校(仮称)に係る  
保護者等説明会【酒田市会場】記録(要旨)

1 日 時 令和元年7月2日(火) 午後7時から午後8時30分

2 場 所 酒田市総合文化センター(酒田市中央西町2番59号)

3 出席者 地域の方々 38名

県教委 須貝教育次長、生島高校改革推進室長、伊藤高校改革推進室長補佐  
奥山高校改革主査、丹野高校改革主査、安達高校改革主査

4 内 容 生島室長から説明後、質疑応答

## 5 質疑応答概要

(質問・意見)

併設型中学校から入学した場合に、高校は普通科に進学することになり、理数科には、受検して進学することになるのか。

(県教委)

どちらにも進学可能である。現在の鶴岡南高校は、普通科と理数科をまとめ募集とし、2年生から普通科、理数科に分かれていくやり方となっている。今後の検討になるが、このようなやり方などにより、どちらにも進学が可能となるようにしたい。

(質問・意見)

中高一貫教育校としての教育理念が感じられず、残念である。県としてどういう人材を育てるのか、なぜ公立の中高一貫教育校が必要なのか。

(県教委)

具体的な教育理念は、教育基本計画策定委員会において、教育目標、学校の特色などとともに1年間かけて検討し、お示しすることになる。

今回の説明会では、一般的なこととして、「中高一貫教育校は、従来の6・3・3の制度に加えて、新たに6・6という選択肢を提供し、計画的・継続的な教育活動により、生徒一人ひとりの個性や能力の伸長を図るものである」ことを申し上げるに留まっている。今後、求められる学校像がどんなものなのかなど、御意見を頂戴しながら、検討を進めてまいりたい。

(質問・意見)

酒田飽海地区からも希望者を募ることになると思うが、現段階で、通学手段の何らかのイメージはあるか。

(県教委)

通学に対するスクールバスなどの対応は、現段階では、考えていない。入学者の居住地が広範囲となるため、スクールバスを全ての地域に行き渡らせることは、制度設計が大変難しいところである。

(質問・意見)

開校年度はいつはつきりするの。開校時に中学2・3年生で入りたい生徒は、入学者選抜はあるのか。

(県教委)

来年7月に教育基本計画が策定される予定であるが、開校年度は関心が高いこともあり、発表できる段階になれば、随時発表していきたいと考えている。

開校年度は、カリキュラムの作成といったソフト面、校舎整備といったハード面を精査し、決定することになる。高校が2校の統合であること、授業を行いながらの校舎の改修工事となると予想されることなど東桜学館中学校・高校の開校以上に時間がかかる要素もある一方で、東桜学館中学校・高校の開校準備のノウハウを活用することにより時間短縮を図れる側面もある。

開校時には、中学校は1年生のみの在籍となり、2・3年生はいない状況でのスタートとなる。高校は、1年生は高校入試を経て入学することになり、2・3年生は、鶴岡南高校及び鶴岡北高校に在籍していた生徒が統合して、併設型高校の2・3年生となる。中学2・3年生の入学者選抜については、市町村立中学校で学んでいた生徒を途中で受け入れるとした場合、前籍校の学級編制や部活動の部員数など、市町村立中学校への大きな影響が考えられるため、実施しないとしている。

(質問・意見)

中学校に入学を考えた場合に、入学者選抜においては、調査書の評定もあると思うが、適性検査はどのような対応をすればよいか教えてほしい。

(県教委)

東桜学館中学校の入学者選抜の基本方針では、「課題を理解し、根拠に基づいて論理的に考え、適切に判断する能力、課題に対する自分の考えを表現する能力など、小学校の教育において身につけた総合的な力をみる」としている。適性検査は小学校学習指導要領の範囲を超えない問題としており、単に知識の多寡などを評価するのではなく、本県で進めている探究型学習などによって培われる、様々な知識・技能の活用した思考力・判断力・表現力などが評価できるようなものとなっている。また、東桜学館中学校の事前説明会においても日頃の小学校の学習にしっかり取り組むことで対応できる旨を説明している。

東桜学館中学校・高校の開校前、どのようなことを頑張らせればよいかという質問に対しては、例えば、「授業にしっかり取り組むこと」「学校生活や家庭での生活、地域の行事などに積極的に取り組むこと」「読書に親しむこと」「疑問に思ったら、辞書や地図などで調べて

みること」「会話を大切にすること」「家での手伝いなど、いろいろな体験をさせること」などと回答してきており、特別な手立ては必要ない。また、東桜学館中学校・高校の開校前年度に、試行テストを実施し、県HPで問題と正答例を公開しているので参考にしてほしい。

(質問・意見)

保護者として対策を考えたいが、評定について、各教科とはそれぞれ何の教科を指しているのか、評価基準がわからないので教えてほしい。

(県教委)

現在のところ、調査書の各教科とは、小学校で学ぶ、国語、社会、算数、理科、音楽、図画工作、家庭、体育の8教科のことであり、評定は各教科3段階で示すことになっている。普段の授業にしっかりと取り組んでほしいと、東桜学館中学校の入学者選抜説明会においても申し上げている。小学校の評定等については、小学校の先生に聞いてほしいところであるが、東桜学館中学校の場合には、小学校の先生方にも、過度な受検競争につながるような特別な手立てをする必要はないと伝えている。

(質問・意見)

適性検査は、東桜学館中学校の問題と同じになるのか。

(県教委)

入学者選抜については、今後検討することになる。適性検査については、同じ県立中学校ということで整合性がとられるかもしれない。他県では、適性検査として大きい括りの問題が3題あった場合、二つが共通で、一つが学校によって異なる例もある。こういった事例などを参考にし、庄内中高一貫校（仮称）に期待されていることなども含めて検討していく。

以上